

### 第 3 回 多摩市総合計画審議会会議録（要旨）

■開催日時 平成 30 年 7 月 25 日（水） 午後 7 時～午後 9 時

■開催場所 多摩市役所 3 階 301 会議室

■出席委員 14 名（50 音順）

飯田 佳子委員、伊藤 雅子委員、尾中 信夫委員、小島 豊委員、榊 つきみ委員、  
鈴木 充委員、妹尾 浩也委員、田村 豊委員、中島 康予委員、野坂 美穂委員、  
藤井 敬子委員、藤本 潔委員、松井 望委員、横山 誠一委員

■欠席委員 長谷川 尚美委員

■事務局

田島企画課長、秋葉企画調整担当主査、西村主事、三富主事  
パシフィックコンサルタンツ㈱ 齋藤氏、森下氏

■傍聴者 なし

■議事日程

開会

- 1 前回要点録の確認
- 2 社会状況・経済等の動向の分析とりまとめの更新について（報告）
- 3 重要テーマ体系化のフローについて（報告）
- 4 重要テーマと基本的な考え方（案）について（協議）
- 5 その他

閉会

## 会 議 録 (要旨)

### 【開会】

出席委員は14名であり、過半数の出席があるため審議会は成立した。

### 【1 前回要点録の確認】

前回要点録（資料1）の確認を行い、修正等無く了承された。

### 【2 社会状況・経済等の動向の分析とりまとめの更新について（報告）】

事務局より資料2、3、5について説明。

委員 非常に達成率が低く見えるまとめ方だが、実際は優先順位の高低で重点的な取組とそうでない取組があると思われるため、その点も考慮できると良い。また、民間企業では、一定の基準の下で、計画期間中の達成状況に応じて目標値に係数をかける場合もある。今回も同様に、重点的な取組に関する指標には係数をかける等の工夫を行った方が、公表時に市民の誤解が無いのではないかと。

事務局 成果目標値自体にも重点的な指標とそうでない指標や、施策の達成状況を測る指標として適切と言い切れない指標等が混在していると認識している。今後、達成状況等を公表する際には参考にさせて頂きたい。

会長 施策の下には事業が紐付いているため、事務事業評価の結果も考慮していくと違う結果が見える可能性があると考え。ただ、第二期基本計画の中で目標値が決定された以上は、客観的に達成状況を把握する作業自体は必要と思われる。

委員 基本的な考え方2の名称について、「人口バランスの維持」となっているが、多摩市の人口バランスは現在崩れており、全国平均に近い状態への是正を目指し様々な取り組みが進められている状態と思われるため、適切でないと考える。「子育て世代に住みよいまちづくり」や、「人口動態の平準化」等、分かりやすい言葉に変更すべきと考える。

事務局 今回お示しした資料は、前回の議論の内容を分かりやすく整理したものであり、基本的な考え方の名称についても後ほどグループ別に議論頂きたいと考えている。

委員 多摩市はニュータウンとして発展してきており、まちづくりの問題は避けて通れないと考える。近隣センターの衰退や高齢者の増加等は、多摩ニュータウンの主要な事業主体や多摩市が、まちの住民の変化に応じたまちづくりに対応しきれなかったためではないかと。資料5に記載された諸課題に対する具体的な取組となるまちづ

くりの問題について言及がないことを非常に疑問に感じる。それから、指標の達成状況が非常に低い点については、市政について批判が生じる恐れもあるため、指標目標値の設定や、現状値、特に市民意識の集約のあり方を見直すべきと考える。

会長 まちづくりに関する課題が欠けているという意見と思う。今回の資料は前回の委員意見を整理したものであり、まちづくりに関する議論が前回の中で少なかったことも一つの要因と考えられる。

委員 都市マスタープランや住宅マスタープランにおいても、先ほど指摘されたようなまちづくりの課題の解決に取り組んでおり、今後もそのような取り組みを続けていくことが重要と考える。

会長 次第3でも議論する時間が設定されているため、後ほど再度議論頂ければと思う。

### 【3 重要テーマ体系化のフローについて（報告）】

事務局より資料4について説明。

会長 将来都市像と13政策を繋ぐ概念やメッセージが弱いため、組み直したいという意図と受け取った。またその中でも、分野横断的に重点化すべきものが何か、を議論頂きたい。

委員 基本的な考え方や重要テーマは、施策レベルの議論がベースなため、今後求められる取組という表現となっている。そのため、第二期基本計画での市民に対する未来志向な掛け声が、実務的なタイトルに変更された、と捉えられ、説明が必要となる可能性がある。もう少し前向きなフレーズにすべきと考える。

会長 このフレーズはある程度固められた表現か。

事務局 フレーズのあり方も含めて議論頂きたい。外部に発信するような表現には現時点ではしていない。第4回審議会の際には表現を固めていきたいと考える。

委員 私は逆に、第二期基本計画は理念的な内容に偏りすぎたと感じている。4年間の計画期間で実行できるような実務的な計画とした方が良いのではないか。

会長 グループ別の議論の後に引き続き議論したい。将来思考型か課題解決型か、という点や、まちづくり、産業政策等の位置付け方は次期基本計画の大きな方向性になり得る。

#### 【4 重要テーマと基本的な考え方（案）について（協議）】

委員 基本計画の上位には基本構想、更に自治基本条例があり、市民意見を可能な限り取り入れようという考え方に基づき、現在の将来都市像が設定されている。「いのちにぎわうまち」というのは、多様性を分かりやすくするために用いられた言葉であり、多様性の尊重が持続可能なまちづくりに繋がるだろうという意図である。このことを共有頂きたい。

#### 基本的な考え方ごとにグループに分かれ議論。

##### ■グループ発表（「基本的な考え方1：超高齢社会への対応、健幸都市」）

委員 出発点としては、抽象的な理念よりも今回の改定では具体的な施策の見える化が望まれていると考える。その際に、今後も深刻化すると見込まれる孤独死への対策が本グループの出発点である。前提として、専門家や、医療・介護等への従事者の仕組みづくりは市が全力で取り組むべきと考える。ただ、行政の取組には限界があるため、支えあいの地域づくりによる市民の連携が必要と考える。具体的に、制度・仕組み作り面では、市民病院の建設や、既存病院に同等の機能を持たせることが考えられる。ハード面では、若年者層と高齢者層の交流や混住等を促進するための整備も重要と考える。これらにより、自治体や専門家等が媒介し市民の力を引き出し、元気な高齢者を作るとともに、高齢者を「支える」だけでなく「輝かせる」ことで多摩市の未来を築くべきという議論となった。なお、「障がい者差別解消法への対応」は、基本的な考え方3に移動したほうがいいのではないかという議論もあったが、年齢によるダイバーシティが、高齢者問題に意味づけを変えていくという意味ではここでも重要な役割を果たすとも考えられる。教育現場でも、年齢的な多様性への理解を深めていくことが重要なのではないかと考える。

##### ■グループ発表（「基本的な考え方2：若い世代の呼び込み、人口バランスの維持」）

委員 「若い世代の呼び込み」という名称に違和感があり、言い換えるべきと考える。その際に、若い世代が住みやすいハード面での整備はベーシックな課題となると思う。その中でも、子ども・若者総合支援条例の制定が市長公約に盛り込まれているが、第三期基本計画の計画期間を通じ、子供の権利を基本の理念として位置づけ、それをベースに取り組みを進めるという考え方があるのではないかと考える。また、多摩市の教育レベルは発展途上と考えられ、引き続き推進が必要と考える。また地域の人材の教育者としての養成も進んでいるが、研修、人材発掘は更に地域ごとに進める必要があると考える。最後に、子どもや高齢者の居場所づくりは引き続き必要と考える。「若い世代の呼び込み」ではなく、子供、若者、子育て世代が「輝く」ということをテーマに内容を絞ることが出来れば良いと考える。

## ■グループ発表（「基本的な考え方3：誰もが生き生きと活力ある地域づくり」）

委員 基本的な考え方を議論する前に、「持続可能なまちづくり」という部分の名称についてまず議論した。この部分を第二期のような前向きな表現に変えた上で、基本的な考え方や重要テーマは実務的に記載するというのであればいいのではないか。「基本的な考え方3」は、「基本的な考え方1、2」と比較して包括的な項目ではないかと考える。その中でも、まず「コミュニティ」では、人材育成や、世代を超えたものが基本的な考え方3では重要と考える。「拠点・新しいまちづくり」では、多摩ニュータウンにおける住み替え支援の優先度が最も高いと考える。更に、「産業」では、「商工業」という表現があるが、多摩市の主要な産業はサービス業と思われるため、そうイメージできる表現が良いと考える。「防災」では、防災弱者対策が主要課題となる。高齢者が関わる問題でもあるが、防災弱者対策にはコミュニティ作りが重要という議論もあるため、「基本的な考え方3」で扱っても良いと考える。「多様性の尊重されるまちづくり」については委員意見が少ないが、漏れのないように盛り込んでおくことも必要と考える。これらの中でも、「一斉高齢化を避けられるまちの形」づくりは、非常に優先度の高い課題と考える。

## ■全体議論

会長 各基本的な考え方の整理のあり方や、個別テーマの仕分け方、「持続可能なまちづくり」の名称についての議論等があったと思う。全体で意見交換したい。

委員 「基本的な考え方1、2」は考え方が明確になったと思われるが、「基本的な考え方3」は残り全てのテーマをまとめたように思われ、現状では3つの考え方を同じ重みで語れるのか疑問がある。そのため、例えばコミュニティに関連する内容に絞るのであれば、「基本的な考え方1、2」の横串となるものとして、「基本的な考え方1、2」にコミュニティの側面で関連する内容を整理することや、市として取り組むまちづくり的な内容に絞っていくこと等も考えられる。

委員 その通りだが、市の幅広い施策の中には「基本的な考え方1、2」に含まれない重要な施策もあるため、それらを「基本的な考え方3」に盛り込むという考え方もあると考える。

会長 産業やまちづくりなど、現在の「基本的な考え方3」の中でも特に取り上げるべきテーマを基本的な考え方として独立させ、その他を包括的にひとつの考え方にまとめていく方法もあり得る。

委員 「基本的な考え方3」は包括的なものとして、その中でも重要なテーマを「基本的な考え方1、2」に盛り込むことや、一つの考え方として独立させることはあり得ると考える。「基本的な考え方1」は危機管理という位置付けと考える。多摩市

が抱える最大の危機的問題は高齢者問題であるが、多摩市は全世界的にも課題先進国である日本の中でも高齢化が先んじて進んでいる自治体であり、取組の重要性は非常に高いと思われる。一方で、若い世代の呼び込み、子育て支援は多摩市が明るい未来を目指すために重要な問題と思われる。

会長　　今回の計画は子育て支援と高齢化対策が最重要課題であると特徴づける、と言う提案だと考える。その考え方に基くと、「基本的な考え方1、2」の中でも「基本的な考え方3」に移行するテーマもあり得る。

委員　　健幸まちづくりというのは、本来は「基本的な考え方3」の内容を指すと考える。健幸まちづくりは高齢者問題に特化したものではなく、「誰もが生き生きと活力ある地域づくり」が、本来は健幸まちづくりの第二ステージとなる取組ではないか。その中でも目の前の課題である重点項目が、ハード整備も含めた高齢化対策と若い世代の呼び込みと位置づける方が良いのではないか。これら3つの考え方は、必ず串刺しとなる要素である。

会長　　第二期基本計画における「スマートウェルネスシティ」の取組が第二ステージに入ったと考え、その中の重点的項目として高齢化対策と若い世代の呼び込みと考えてはどうかという提案と考える。

事務局　一点だけ、重要テーマの下には施策分野別に網羅的に設定する体系があることを前提とした上で、どこまで重要テーマのレベルで網羅するか、という論点もあると考えるが、その点はどうか。

委員　　その点は市としての考え方によると考える。施策体系の中に3つの考え方のいずれにも紐づかないものがあると、市としても予算配分上望ましくないのではないか。だからこそ、「基本的な考え方3」を包括的な内容にすべきと考えている。

事務局　仰る通り、基本的な考え方に関連する施策については恐らく重点的に取り組むことになるため、予算面でもその他の施策とは差をつけることにはなると思われるが、網羅的な計画とする考え方もあるれば、選択と集中の時代であることを考慮してある程度重点的に予算をつけていく計画とする考え方もあり得ると思われる。

委員　　市として取り組むべき問題は確かに幅広いが、その中でも第三期基本計画で特に重点的に取り組むべき問題もあるため、それは明確に位置づける必要があると考える。その際に、重要な問題と思われる高齢化対策と子育て支援を前面に押し出し、それをコミュニティ支援等が支える構造とすることも良いと考える。その上で、予算の重点化等の議論は今後引き続き議論していけば良いのではないか。

会長 方向性が多少明確になってきたと思われるため、事務局で受け取ってまとめてもよいか。後は、「基本的な考え方1、2」の中での重点度の差については意見はあるか。

委員 財源面から見ると、高齢化対策に関しては自主財源以外にも活用可能な財源が一定程度見込まれる。そのため、市の独自財源はむしろ若い世代への支援に重点的に投入することにはなるのではないかと考えている。

会長 「持続可能なまちづくり」の名称について意見はあるか。

委員 基本的な考え方を束ねるフレーズとしては多摩市では相応しくないと考える。

委員 基本構想の「いのちにぎわう」というフレーズの継続はあり得ないのか。

会長 基本構想の改定はしないため、基本的には継続される概念だ。

委員 「にぎわうまちづくり」や「いのち輝くまちづくり」など、多摩市としてのフレーズの定着をはかる考え方もある。

委員 第二期基本計画の3つの取り組みの方向性のひとつである「発信・未来をつなぐまち」というのが総称しているものと考ええる。様々な分野で情報発信力不足が指摘されているとすれば、全市的に発信を進めていく必要があるということと思われる。更に、「未来をつなぐ」というのが持続可能という意味合いもあるとすれば、そのようなくくり方があり得るのではないか。

会長 基本構想のフレーズの定着を図るというのは確かに重要と思われる。現在の議論を基にワークシートを修正頂きたい。

委員 グループ1では、「健幸都市」は市民皆に関わりのある話ではないかと議論していた。基本的な考え方全体に関わる考え方ではないか。また、障がい者に関連する事項が「基本的な考え方1」で良いのか多少の違和感がある。

会長 意見は出尽くしたと思われるため、議論を踏まえまとめさせて頂き、市民ワークショップの結果も含め第4回で改めて議論頂きたい。

## 【5 その他】

総合計画改定ワークショップについて説明。

会長       ワークショップの参加者は現状で何名程度が見込まれているか。

事務局     無作為抽出で2,000名に案内を送付しており、今現在2日間で計40名ほど参加予定となっている。

## 【閉会】